



海田西小学校
 通級指導教室だより No.13
 令和3年11月25日(木)

ADHD の特性と関わり方

(参考資料「発達障害の子どもの心がわかる本」)

発達障害の中でも ADHD(注意欠如/多動性障害)は、性格なのか障害なのかの見極めが難しく、ADHDがよく知られるようになった現在でも、「性格が悪い。」「しつけができていない。」等、言われることがあります。

ADHDは、脳の機能障害であり、本人の努力や親のしつけとは無関係です。自分の要求や行動を抑制する機能がうまく働かず、「今やるべきこと」ではなく、「今やりたいこと」をしてしまうため、「落ち着かない。」「叱られても同じことを繰り返す。」と、言われる原因を作ってしまったたり、集団活動や人間関係がうまくいかなかったりすることがあります。

特性としては、不注意・多動性・衝動性があげられますが、個々によって症状は違います。

① 不注意	② 多動性	③ 衝動性
<ul style="list-style-type: none"> ・一つの事に集中するのが苦手。 ・気が散りやすい。 ・ケアレスミスが多い。 ・指示に従えないことが多く、最後までやり遂げることが難しい。 ・精神的努力を続ける課題(長い文章をまとめる等)を避ける・嫌う。 ・物や時間の管理が難しい。 ・やるべきことを忘れる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・じっとしてられない。 ・姿勢の保持が難しい。 ・思いついたことを一方的に話し続ける。 ・相手の言いたいことをくみ取ったり、話を最後まで聞いたりすることが難しい。 ・気になることがあると立ち歩く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・待てない。 ・ほしい物があると、奪い取ってしまう。 ・他人の活動を邪魔したり、妨害したりする。 ・集団のルールが守れない。 ・言いたい気持ちが抑えられず、相手の話を聞かずにしゃべる。 ・怒りや悲しみの感情が抑えられない。



周りの大人ができること・すべきこと

体罰・暴言・どなる・・・は、
悪い結果を生むだけ

一時的に従ったとしても、聞き流すことを覚え、声が届かなくなります。
さらには、「人を暴力で従わせる」と、いう間違った方法を学んでしまいます。

NG!



○注意の回数を減らす

絶対にやめさせるべきことと、見逃してもよいことを見極めて声をかけましょう。

絶対にやめさせるべきこと

→法律に違反すること(人の体を触る・人の物をとる等)
自分や他人を傷つけること(自傷行為・暴力・暴言等)

正面から目を合わせ、
落ち着いた口調で、
一度で短く伝える。

OK!



ADHDの子は、暴言や乱暴な行動で相手の反応を求める傾向があります。
それに応じると、注目されたくて問題行動が増えることがあるので、好ましくない行動は、教育的スルーをすることが望ましいです。
良い行動がとれた時にしっかり褒めることで、善悪の判断がついていきます。

「ありがとう。」「ごめんなさい。」が、言える子に！
これらの言葉は、社会を生きていくためのパスポート。
自然に言えるように教えていきましょう。

○スケジュールの見える化

ADHDの子の頭の中は、情報が散乱しています。

また、行き当たりばったりで考える傾向があります。

「今すべきこと」を理解させるには、視覚に訴えることが効果的。

スケジュールを具体的な言葉で書き、順番に予定をこなしていく練習を通して、ルールやスケジュールにそって行動できる力をつけていきましょう。

ADHDの子達は、本来、活動的でエネルギッシュ。
自分から「やるぞ!」と、決めたことに対しては、強い気持ちで取り組み、成果をあげます。
的確な支援を心がけて、指導していきましょう。